

研究課題：語強勢の獲得と史的变化

研究目的

この研究は英語強勢体系の歴史的変化を生成音韻論の立場から分析して、人間の脳の中に実在すると考えられる言語機能の特性を解明する生成文法の理論研究に貢献することを第一の目的とするものです。さらに、なぜ言語は変化するのかという歴史言語学研究の究極の問いに挑むことを第二の目的としています。

研究内容の概略

英語の各時代に書かれた詩を韻律分析し、語強勢の史的变化を韻律音韻論や最適性理論の枠組を用いて分析しています。特に、アングロ・ノルマン語が英語に与えた影響を示す資料の収集を行い、変化を捉える方法についての考察を行っています。また、賛美歌や童謡、民謡など、私たちにも馴染み深い英語の歌のリズムと意味との関係を調べています。

名古屋文理大学における研究成果の応用

(1) プラクティカル・イングリッシュ I~IV

効果的に英語の発音ができるように、超音節的な特徴についての最新研究の成果を提供しています。また、全学科の新入生が iPad を利用できることをふまえ、iPad を利用したリスニング・スピーキング教材を作成しています。

(2) 基礎演習・専門演習・卒業演習

ビジネス英語を学ぶ場面での自動翻訳・機械翻訳の可能性を探っています。iPad を利用したリスニング・スピーキング教材の研究と並行して、リーディング・ライティング演習にも iPad を利用できるよう、教材の提供を行なっています。

(3) 英語で楽しむ絵本の世界

地域の小学生や幼児向けに英語で絵本の朗読を行なっています。学生が自信を持って朗読劇の発表ができるように、英語の発音クリニックを実施しています。

“The Riverside Chaucer

出版社：Oxford Paperbacks; 第3版

発売日：1988/3/24

ISBN-13：978-0192821096

